

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2025年／令和7年

第487号

9月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290

ワールドカップの 悔しさバネに!!



第12回ワールドゲームズでアメリカと「同時優勝」を飾った男子TOP日本代表

C o n t e n t s

・第12回ワールドゲームズ（男子）.....	2	・第25回全日本中学生男子大会.....	20
・第12回ワールドゲームズ（女子）.....	4	・第25回全日本中学生女子大会.....	22
・第14回女子アジアカップ.....	6	・第39回全日本小学生男子大会.....	24
・女子U18日本代表レポート.....	8	・第39回全日本小学生女子大会.....	26
・第65回全日本実業団男子選手権大会.....	10	・第71回全日本教員大会.....	28
・第65回全日本実業団女子選手権大会.....	12	・日韓交流事業（チーム招待）.....	30
・第46回全日本クラブ女子選手権大会.....	14	・1年の総決算！全日本大会開催真っ盛り!!.....	32
・第60回全日本高校男子選手権大会.....	16		
・第77回全日本高校女子選手権大会.....	18	・事務局だより.....	34

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

第12回ワールドゲームズ（男子ソフトボール）

2025.8.6～10 中国・成都



2チーム同時優勝 金メダル獲得

去る8月6日（水）～10日（日）、中国・成都で「第12回ワールドゲームズ」（男子ソフトボール）が開催され、男子TOP日本代表が出場。

大会にはアルゼンチン（1）、オーストラリア（2）、日本（3）、カナダ（4）、ベネズエラ（5）、アメリカ（6）の「世界ランキング」上位6チーム、「ワイルドカード」での出場となるチェコ（7）、シンガポール（13）の2チームを加えた「世界最高レベル」のチームが勢揃い。「ワールドカップファイナル」と並ぶ大会として開催された（※2024年12月31日時点の世界ランキングで決定。（ ）内の数字はランキング順位を示す）。

大会は参加8チームをA・B2つのグループに分け、アルゼンチン、日本、ベネズエラ、チェコの4チームが「グループA」に、オーストラリア、カナダ、アメリカ、シンガポールの4チームが「グループB」に振り分けられ、シングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オープニングラウンド」を実施。両グループの上位2チームが「セミファイナル」（準決勝）に進出。「グループA」1位は「グループB」2位と、「グループB」1位は「グループA」2位とそれぞれ対戦し、「セミファイナル」（準決勝）の敗者は「ブロンズメダルゲーム」（3位決定戦）に、勝者が「ファイナル」（決勝／優勝決定戦）に進む試合方式で覇が競われた。

男子TOP日本代表は、大会初日、初戦の相手・チェコの用具が届かず、急遽、中止・順延となるハプニングがあり、大会2日目、先の「ワールドカップファイナル」を初制覇。「世界チャンピオン」となったベネズエラと対戦。序盤リードを許す展開になりながら終盤の猛攻で10―3の6回コールド勝ち。この試合の後に組み込まれたチェコ戦は、試合会場にナイター設備がなかったこともあり、5回終了時点で男子TOP日本代表が8―2とリードしていたところで試合続行不可能と判断され、日没コールド。最終戦のアルゼンチン戦も先制しながら一度は逆転を許す苦しい試合展開となりながら終盤6回表、八角光太郎のタイムリーで同点に追いつき、「ベテラン」片岡大洋の勝ち越しタイムリー、大川竜志の犠牲フライで7―5と試合をひっくり返し、粘るアルゼンチンを振り切り、「オープニングラウンド・グループA」3戦全勝、1位で「セミファイナル」（準決勝）に駒を進めた。

「セミファイナル」（準決勝）では「オープニングラウンド・グループB」2勝1敗で2位のカナダに6―1で快勝。「ファイナル」（決勝／優勝決定戦）でも「全勝」のアメリカと雌雄を決するはずであったが、悪天候で試合が実施できず「両チーム優勝」の結果となった。

第12回ワールドゲームズ(男子ソフトボール) オープニングラウンド 日本戦試合結果



第2戦 JAPAN 8 - 2 CZECHIA
OPENING ROUND GROUP A

第1戦 JAPAN 10 - 3 VENEZUELA
第3戦 JAPAN 7 - 5 ARGENTINA

3戦全勝
1位



第12回ワールドゲームズ(男子ソフトボール) 「セミファイナル」(準決勝) 日本戦試合結果



JAPAN 6 - 1 CANADA



2チーム同時優勝



「ファイナル」(決勝/優勝決定戦) JAPAN vs USA ※雨天中止 両チーム優勝・金メダル

※大会出場メンバー、各選手プロフィール、試合結果等詳細はこちら

第12回ワールドゲームズ（女子ソフトボール）

2025.8.13～17 中国・成都



「まさか」の敗戦 銅メダルに終わる

去る8月13日（水）～17日（日）、中国・成都で「第12回ワールドゲームズ」（女子ソフトボール）が開催され、女子TOP日本代表が出場。

大会にはアメリカ（1）、日本（2）、プエルトリコ（3）、チャイニーズ・タイペイ（4）、オランダ（5）、カナダ（6）の「世界ランキング」上位6チーム、ホスト国の中国（12）、オーストラリア（10）の2チームが「ワールドカード」での出場。「世界最高レベル」のチームが顔を揃え、「ワールドカップファイナル」と並ぶ「ビッグイベント」として開催された（※2024年12月31日時点の世界ランキングで決定。（）内の数字はランキング順位を示す）。

大会は参加8チームをA・B2つのグループに分け、中国、オランダ、チャイニーズ・タイペイ、アメリカの4チームが「グループA」に、オーストラリア、カナダ、日本、プエルトリコの4チームが「グループB」に振り分けられ、シングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オープンングラウンド」を実施。両グループの上位2チームが「セミファイナル」（準決勝）に進出。「グループA」1位は「グループB」2位と、「グループB」1位は「グループA」2位とそれぞれ対戦し、「セミファイナル」（準決勝）の敗者は「ブロンズメダルゲーム」（3位決定戦）に、

勝者が「ファイナル」（決勝／優勝決定戦）に進む試合方式で覇が競われた。

男子TOP日本代表は、大会初日、初戦でオーストラリアに10－3の6回コールド勝ち。続くプエルトリコ戦も7－0の5回コールドと、いつも通り、順調な足取りを刻んでいるかに見えた。しかし……「オープンングラウンド・グループB」1位通過をかけたカナダ戦、「若きエース」後藤希友が2回裏にソロホームランを被弾し、続く3回裏には押し出しで1点を与えてしまう苦しい試合展開に……。打線も6回表、「ベテラン」内藤実穂のタイムリーで1点を返し、なお二死一・三塁の「同点」「逆転」のチャンスが続いたが「あと一本」が出ず、1－2で敗れ、「オープンングラウンド・グループB」2勝1敗の2位で「セミファイナル」（準決勝）に進むことになり、誰もが「ファイナル」（決勝／優勝決定戦）で顔を合わせると予想していた「オープンングラウンド・グループA」3戦全勝の1位、「宿敵」アメリカと対戦することになった。

「宿敵」アメリカとの「セミファイナル」（準決勝）は延長10回に及ぶ「死闘」となり、6－7の逆転サヨナラ負け。「ファイナル」（決勝／優勝決定戦）進出を逃し、「3位決定戦」でカナダを11－1の大差で破り、銅メダルを獲得するにとどまった。

第12回ワールドゲームズ(女子ソフトボール) オープニングラウンド 日本戦試合結果



©WBSC

試合レポートはこちら

第2戦 JAPAN 7 - 0 PUERTO RICO
OPENING ROUND GROUP B



©WBSC

試合レポートはこちら

第1戦 JAPAN 10 - 3 AUSTRALIA
第3戦 JAPAN 1 - 2 CANADA

2勝1敗
2位



試合レポートはこちら

©WBSC

第12回ワールドゲームズ(女子ソフトボール) 「セミファイナル」(準決勝) 日本戦試合結果



©WBSC

試合レポートはこちら



©WBSC

JAPAN 6 - 7 USA

第12回ワールドゲームズ(女子ソフトボール) 「3位決定戦」 日本戦試合結果



©WBSC

試合レポートはこちら



©WBSC



JAPAN 11 - 1 CANADA

※大会出場メンバー、各選手プロフィール、試合結果等詳細はこちら



第14回女子アジアカップ

2025. 7.14 ~ 20 中国・西安

アジアに敵なし 7連覇

「第14回女子アジアカップ」が7月14日（月）～20日（日）、中国・西安で開催され、日本（3）、チャイニーズ・タイペイ（4）、フィリピン（15）、中国（17）、韓国（36）、シンガポール（32）、香港（36）、タイ（49）、インド（54）、マレーシア（※世界ランク外）の10チームが出場（※）内数字は大会開催時の世界ランキング順位。

大会の試合方式は、出場全10チームでシングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オーブンングラウンド」を実施。その「オーブンングラウンド」の順位に基づき、3位・4位のチームがブロンズメダルゲーム（3位決定戦）を、1位・2位のチームが「ゴールドメダルゲーム」（優勝決定戦）を戦い、「最終順位」を決定。上位3チームが「第18回女子ワールドカップグループステージ」出場権を獲得。また、上位8チームに「2026愛知・名古屋アジア競技大会」への出場権が与えられるとあって、最後まで激しい順位争いが繰り広げられた。

女子TOP日本代表は将来性豊かな「若手主体」（大会出場メンバーはこちら）のメンバーで臨み、初戦のマレーシア戦に10-0の4回コールド勝ち。大会2日目はダブルヘッダーとなり、まずシンガポールに10-0の4回コールドで大勝すると、続くフィリピン戦も9-

1の6回コールド。大会3日目もダブルヘッダーでチャイニーズ・タイペイを4-1、香港を16-0（4回コールド）で撃破。無傷の5連勝を飾り、3日連続のダブルヘッダーとなった大会4日目もタイに16-0、韓国に12-2と2試合連続の4回コールド勝ち。大会5日目「ホスト国」である中国に10-0で大勝し、大会6日目のインド戦も16-0の3回コールド勝ち。オーブンングラウンド9戦全勝の1位で「ゴールドメダルゲーム」（優勝決定戦）進出を決めた。

大会最終日はあいにくの雨となり、「ブロンズメダルゲーム」（3位決定戦）、「ゴールドメダルゲーム」（優勝決定戦）は実施することができず、「オーブンングラウンド」の成績で順位を決定することになり、女子TOP日本代表が大会7連覇の「偉業」を達成するとともに「第18回女子ワールドカップグループステージ」出場権を獲得。ワールドカップ「連覇」へ向け、着実に「次なる段階」へ駒を進め、オリンピック3大会連続の「金メダル獲得」という「大目標」へ向けても確実に歩みを進めた。

また、将来有望な若手選手たちが「国際舞台」を経験し、持てる力を十分に発揮し、躍動してくれたことも大きな「収穫」であり、ワールドカップ「連覇」とオリンピック「3大会連続金メダル」につながる大会となった。

第14回女子アジアカップ 日本戦 試合結果



OPENING ROUND GAME 3
vs PHILIPPINES

OPENING ROUND GAME 2
vs SINGAPORE

OPENING ROUND GAME 1
vs MALAYSIA



OPENING ROUND GAME 6
vs THAILAND



OPENING ROUND GAME 5
vs HONG KONG



OPENING ROUND GAME 4
vs CHINESE TAIPEI



OPENING ROUND GAME 9
vs INDIA



OPENING ROUND GAME 8
vs CHINA



OPENING ROUND GAME 7
vs KOREA



大会 7 連覇 優勝 9 戦全勝

※試合のスコアをクリックすると各試合の試合レポートがご覧になれます

●女子U18日本代表レポート●



ワールドカップファイナルへ チームを本格強化！

来る9月27日（土）～10月1日（水）、アメリカ・オクラホマシティにおいて開催される「第15回女子U18ワールドカップファイナル」に出場する女子U18日本代表がチームを本格強化。

8月12日（火）～14日（木）の3日間、東京女子体育大学にて「国内強化合宿」を実施し、計7試合のテストマッチを行う等「実戦主体」の強化に励んだ。



4月の選考会后、代表選手を初招集！

大学女子ソフトボールの名門・東京女子体育大学、日本女子ソフトボールのトップリーグJ.D. LEAGUEに所属する日立サンディーバ、NECブラットフォームズレッドファルコンズの胸を借りたテストマッチでは、さすがにスピード・パワー、技術、経

験値の違いを見せつけられ……苦戦の連続。得点差は開き、そのスコアが物語る通り「トップレベルの壁」にぶち当たる光景が見受けられたが、その厳しい現実・課題から逃げることなく、個々に、チームとしても真摯に向き合い、コーチングスタッフや日本代表の先輩から様々な視点の「指導」「アドバイス」を受け、一步一步着実に「成長」を遂げていく選手たちの姿が印象的でもあった。

今回のU18ワールドカップファイナルでアメリカの5連覇を阻止し、2013年以来遠ざかっている「女子ジュニア世界一の座」奪還を果たすことは確かに目標として掲げられているが、男女ともこの「ジュニアアカテゴリー」はTOPカテゴリーへつなげていくための「通過点」に過ぎず、決してゴールではないということ……私たちは今一度確認・共有しておく必要がある。この先を、未来の女子TOP日本代表を思い描く「大きなビジョン」を常に持ちながら……「世界」に挑み、「前進」し続けていくことこそ重要なのである。

◎U18ワールドカップファイナル
大会概要・試合スケジュール
日本選手団名簿はこちら



挑め！ 世界へ！！

第65回全日本実業団男子選手権大会

令和7年7月19日（土）～21日（月・祝） 山口県宇部市／宇部市東部体育広場

記録提供：山口県協会記録委員会

Honda（栃木）



35年ぶりの3連覇

今大会は7月19日（土）～21日（月・祝）の3日間にわたり、山口県宇部市・宇部市東部体育広場を舞台に開催された。

大会初日（19日／土）に1回戦の16試合、2日目（20日／日）に2回戦・準々決勝の12試合、3日目（21日／月・祝）に準決勝・決勝の3試合を行い、連日酷暑の中ではあったものの、無事に全日程を終了することができた。



連日 35℃ を超える酷暑の中、熱戦が繰り広げられた

ベスト4には、Honda（栃木）、デンソー（愛知）、トヨタ自動車（愛知）、安川電機（福岡）が勝ち上がり、実業団男子の「頂点」の座をかけ、最終決戦へ挑んだ。

〈準決勝〉デンソー 0－1 Honda

試合は、Honda・池田空生、デンソー・山脇佑也の両先発で始まり、緊迫した投手戦が繰り広げられた。2回裏、Hondaは、この回先頭の4番・坂田大士が振り逃げ暴投で出塁し、一死後、二塁へ盗塁。二死となった後、7番・葛野奏の四球で一・二塁とし、8番・野澤空汰のセンター前タイムリーで二塁走者が一気に生還。この回1点を先制した。

一方、デンソーは男子TOP日本代表でも「エース」として活躍するHonda・池田空生を攻略できないまま、迎えた最終回、一死から、7番・山脇佑也がセンター前ヒットで出塁し、二死後、9番・濱口鯉来のセンター前ヒットで一塁走者が判断よく三塁を陥れ、二死一・三塁と「一打同点」のチャンスをつかんだが、後続がサードゴロに倒れ、ゲームセット。Hondaが1－0で逃げ切り、「3連覇」へ王手をかけた。



池田空生の11三振を奪う好投で3連覇へ王手

〈準決勝〉トヨタ自動車 5－0 安川電機

小野寺翔太、八木孔輝とつなぐ投手リレーで安川電機打線を1安打完封



先攻のトヨタ自動車は3回表、この回先頭の8番・大野流畏斗がバント安打で出塁し、次打者の送りバントで一死二塁の先制機をつかむと、1番・黒岩誠亥の二遊間を抜くタイムリーで二塁走者が三塁を蹴って先制のホームイン。この回1点を先制した。トヨタ自動車は終盤6回表にも、この回先頭の2番・西森亜夕夢がショートのエラーで出塁。犠打で二塁に進塁し、4番・真崎海斗の三遊間を抜く安打、さらに5番・杉山喜規の死球で満塁と攻め立て、2つのワイルドピッチで2点を追加。なお、一死三塁のチャンスが続き、二死後、7番・坂本匠のレフト前タイムリーでこの回3点目。さらに一塁走者が盗塁、ワイルドピッチで三塁へ進み、8番・大野流畏斗の二遊間を破るタイムリーで三塁走者が還り、この回決定的な4点を追加し、5－0とリードを広げ、決勝進出を決めた。

《決勝》トヨタ自動車 1－2 Honda

決勝はHonda・長井風雅、トヨタ自動車・小野寺翔太の男子TOP日本代表に名を連ねる両投手が先発。先攻のトヨタ自動車は初回、同じく男子TOP日本代表の黒岩誠亥が先頭打者ホームランを放ち、1点を先制。

しかし、1点を追うHondaが3回裏、一死から1番・川島大空、2番・遠畑光希の連打で一・二塁と攻め立てると、3番・福田空脩の左中間を深々と破るタイムリースリーベースで走者を一掃！逆転に成功した。

直後の4回表、トヨタ自動車も四死球と犠打等で二死二・三塁の好機を得たが、後続がセンターライナーに倒れ、無得点。その後は両チームとも得点のチャンスを作れず、Hondaが2－1でトヨタ自動車を破り、35年ぶり2度目の「3連覇」を成し遂げた。



福田空脩の2点タイムリーツーベースで逆転勝利！

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！

第65回全日本実業団女子選手権大会

令和7年7月26日（土）・27日（日） 京都府福知山市／福知山市三段池ラビハウスフィールド
記録提供：京都府協会記録委員会



VONDS市原 Emerald Green（千葉）

初の栄冠に輝く！



大会 MVP・西音華
(VONDS市原 Emerald Green)



優秀選手・西愛美
(花王コスメ小田原 フェニックス)

【大会概要】

標記大会は、7月26日（土）・27日（日）の両日、京都府福知山市・福知山市三段池ラビハウスフィールドを会場に開催された。

大会初日は、1回戦・2回戦6試合が行われ、ベスト4が出揃い、「連覇」を狙う花王コスメ小田原フェニックス（神奈川）、日本リーグ「プラチナセクシオン」で「同率首位」に並ぶ大和電機 Blue Lakers（長野）、同じく日本リーグ「サファイアセクション」で「同率首位」のVONDS市原 Emerald Green（千葉）、同じく日本リーグ所属の平林金属 Peach blossoms（岡山）の4チームが勝ち上がり、準決勝に駒を進めた。

大会2日目（最終日）は準決勝・決勝の計3試合が行われ、花王コスメ小田原フェニックスが平林金属 Peach blossomsに2-0の完封勝ち。もう一方のゾーンではVONDS市原 Emerald Greenが大和電機 Blue Lakersに2-1で競り勝ち、決勝進出。

決勝では、VONDS市原 Emerald Greenが「連覇」を狙う花王コスメ小田原フェニックスに4-0の完封勝ち。初の栄冠を手にした。

〈準決勝〉 平林金属 Peachblossoms 0-2 花王コスメ小田原 フェニックス

後攻の花王コスメ小田原 フェニックスは初回、二死走者なしから3番・鈴木未空が死球で出塁。すかさず二塁盗塁を成功させ、二死ながら得点圏に走者を進めると、4番・山岡未歩のピッチャー強襲安打の間に二塁走者が一気に還り、先取点を挙げた。花王コスメ小田原 フェニックスは5回裏にも四球、盗塁、犠打で一死三塁とし、2番・岡田南がスクイズを決め、貴重な追加点を挙げ、2点差にリードを広げた。

守っては、「エース」栗原ななみが好投! 平林金属 Peachblossoms 打線をわずか2安打に抑え込み、見事な完封。「連覇」に王手をかけた。



花王コスメ小田原 フェニックス
「エース」の好投で「連覇」へ王手

〈準決勝〉 VONDS市原 Emerald Green 2-1 大和電機 Blue Lakers



VONDS市原 Emerald Greenが
僅差の接戦を制し、決勝進出!

VONDS市原 Emerald Greenは2回表、6番・石井愛華の二塁打、犠打で一死三塁とし、8番・湊江マリンのタイムリーで先取点を挙げた。VONDS市原 Emerald Greenは5回表にも1番・塚本楓花のライト線への二塁打、犠打で一死三塁としたが、次打者のサードゴロで三塁走者が本塁タッチアウト。チャンスを逃したかに見えたが、4番・吉田汐里の中越三塁打で一塁走者が一気に還り、2点目を挙げた。

その裏、大和電機 Blue Lakersは9番・古賀藍奈のレフト線への当たりがランニングホームランとなり、1点を返し、1点差に迫ったが、力投の渡邊双葉の前に反撃を断たれ、1点差で敗れた。

〈決勝〉 VONDS市原 Emerald Green 4-0 花王コスメ小田原 フェニックス

両チーム無得点で迎えた4回表、VONDS市原 Emerald Greenは2つの四球で二死一・二塁とし、5番・紺野穂乃香、6番・千葉春海の連打で2点を先制。続く5回表にも、この回先頭の7番・石井愛華の二塁打、四球、犠打で一死二・三塁とし、1番・塚本楓花、2番・郡司美友の連打で2点を追加。4点差にリードを広げた。

守っては、決勝戦の先発を任された西音華が好投。初回にいきなり「イリールガルピッチ」の宣告を受け、四球の走者を出す等、立ち上がりにピンチを招いたが、このピンチを味方守備陣の好守もあり、ダブルプレイで切り抜けると、その後は落ち着きを取り戻し、「連覇」を狙う花王コスメ小田原 フェニックス打線をわずか3安打に抑え込み、最後まで得点を許さず、見事な完封。チームの初優勝に大きく貢献し、「大会MVP」に輝く活躍を見せた。

一方、花王コスメ小田原 フェニックスは継投策が結果的に裏目となり、先発した「エース」栗原ななみが初回、2回表と三者凡退の好調な滑り出しを見せていたが、3回表から左腕・小林彩絵に交代。その小林彩絵が4回表に2点を失い、5回表にも3番手・星野圭音が一死二・三塁のピンチを招いたところで「エース」栗原ななみを再出場・再登板させたが連打を浴び、決定的な2点を失い、勝負あり。「連覇」を逃す結果となった。



VONDS市原 Emerald Greenが
理想的な試合展開で初優勝!



決勝戦ダイジェスト動画はこちらから



大会結果の詳細、全試合のイニングスコア等は
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第46回全日本クラブ女子選手権大会

令和7年7月19日（土）～21日（月・祝）
北海道俱知安町／俱知安町営ソフトボール球場
記録提供：北海道協会記録委員会

4連覇の偉業達成！



MORI ALL WAVE KANOYA（鹿児島）



優秀選手・山下紗季
(Citrine Ichinomiya)



大会 MVP・福元彩未
(MORI ALL WAVE KANOYA)

【大会概要】

標記大会は、7月19日（土）～21日（月・祝）の3日間、北海道俱知安町・俱知安町営ソフトボール球場を会場に開催され、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた代表24チームが「北の大地」で一堂に会し、「クラブ女子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会初日は、4会場を使用して1回戦・2回戦16試合を実施する予定であったが、悪天候のため、1回戦8試合のみを実施。2日目に2回戦・準々決勝12試合を行い、ベスト4が出揃った。

大会最終日、準決勝・決勝3試合が行われ、大会「4連覇」の偉業達成を狙うMORI ALL WAVE KANOYA（鹿児島）、地元・北海道代表の石狩SC、Citrine Ichinomiya（愛知）、厚木SC（神奈川県）の日本リーグ勢がベスト4に勝ち上がり、「最後の決戦」に挑んだ。

結果は「4連覇」を狙うMORI ALL WAVE KANOYAが地元・期待の石狩SCを7-1で破り、厚木SCに2-1のサヨナラ勝ちを収めたCitrine Ichinomiyaと決勝で顔を合わせ、決勝ではMORI ALL WAVE KANOYAがCitrine Ichinomiyaに5-0の完封勝ち。見事「4連覇」の偉業を達成した。

〈準決勝〉 石狩 SC 1－7 MORI ALL WAVE KANOYA

後攻のMORI ALL WAVE KANOYAは初回、1番・藤田直がいきなりの左中間三塁打。四球、盗塁で無死二・三塁とし、一死後、4番・藤野亜美、5番・山根楓加の連続適時内野安打で2点を先制。これで勢いづいたMORI ALL WAVE KANOYAはその後も攻撃の手を緩めず、12安打・7得点の猛攻！ 石狩SCを圧倒した。

地元・期待の石狩SCも6回表、「キャプテン」平川美里のタイムリーで1点を返し、詰めかけた観客を沸かせる場面もあったが、反撃もここまで。「快進撃」を続け、大会を盛り上げてくれたチームがついに準決勝で力尽き、3位で大会を終えた。



大会の「主役」となった石狩 SC

〈準決勝〉 厚木 SC 1－2 Citrine Ichinomiya



劇的なサヨナラで決着

両チーム無得点で迎えた6回表、厚木SCは二死三塁の先制機に5番・木下奈津が三塁強襲のタイムリーを放ち、1点を先制。Citrine Ichinomiyaもその裏、相手投手の制球の乱れに乗じて押し出して1－1の同点に追いついた。

厚木SCは最終回、この回先頭の7番・松尾奈月が中越二塁打を放ったものの、ダブルプレイで勝ち越しのチャンスを潰し、Citrine Ichinomiyaがその裏、内野安打で出塁した走者を、一死後、犠打で二死ながら二塁へ進め、3番・林佑奈が三遊間を抜くサヨナラのタイムリー！ 劇的なサヨナラ勝ちで厚木SCを振り切り、決勝進出を決めた。

〈決勝〉 MORI ALL WAVE KANOYA 5－0 Citrine Ichinomiya

「大会4連覇」の偉業達成を狙う先攻のMORI ALL WAVE KANOYAは初回、二死走者なしから3番・鈴木真由子のレフト前ヒット、四球で一・二塁とし、5番・新谷静香のレフト前へのタイムリーで先取点を挙げた。続く2回表にも、二死走者なしから1番・藤田直がライト前ヒットで出塁すると、すかさず盗塁。2番・福元彩未のレフトオーバーのタイムリーツーベースで1点を追加。2点差にリードを広げた。2点リードのまま、迎えた終盤6回表には相手守備の乱れ、押し出し、4番・藤野亜美の犠牲フライで決定的な3点を追加。「4連覇」の偉業達成へ大きく前進した。

守っては、初回の守りにつくと同時に、DP・竹原由菜がFP・ピッチャーの守備を兼務。「実質的な先発投手」となり、Citrine Ichinomiya 打線をわずか2安打に抑え込み、最後まで得点を許さず、5－0の完封勝ち。大会4連覇の偉業を達成した。

敗れたCitrine Ichinomiya は準決勝でサヨナラ勝ち。勢いに乗って「王者」に挑んだが……立ちほだかる「王者」の壁は高く厚く、力及ばず準優勝に終わった。



MORI、圧勝で4連覇達成！



第46回全日本クラブ女子選手権大会

決勝

ダイジェスト

2025.7.21 北海道俱知安町・俱知安町営ソフトボール球場

[決勝戦ダイジェスト動画はこちらから](#)


大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

◎第60回全日本高等学校男子選手権大会◎

令和7年8月2日（土）～5日（火） 岡山県津山市／勝北総合スポーツ公園・加茂町スポーツセンター



「夏の頂点」をめざし、熱戦展開！

高校生にとって、最高峰の舞台となる「インターハイ」。灼熱の太陽のもと、全国の厳しい予選を勝ち抜いてきた43チーム（※開催地・岡山から2チーム出場）が岡山県津山市に集結。高校男子ソフトボール「夏の日本一」を競う「第60回全日本高等学校男子選手権大会」が、8月2日（土）～5日（火）の4日間にわたり開催された。

大会では各チーム、男子ソフトボールならではのスピード・パワー、そして技術を前面に出しつつも、高校生らしい「爽やかなプレイ」で観客を魅了した！

熱戦を勝ち上がりベスト4に名乗りを上げたのは、長崎県立大村工業高等学校（長崎）、豊川高等学校（愛知）、愛媛県立東温高等学校（愛媛）、徳島県立徳島科学技術高等学校（徳島）の4チーム。それぞれが最終日、インターハイ王者をかけた「最後の戦い」に臨んだ。



2回表、満塁ホームランを放った3番・大島拓人

「準決勝」
大村工業高 9―2 豊川高

先攻の大村は初回、四球、内野安打、盗塁等で一死二・三塁の好機を作り、4番・北川水悟が三遊間へ適時打。二者が還り、幸先良く2点を先制した。大村は続く2回表にも相手守備の乱れにつけ込み、二死満塁と攻め立て、3番・大島拓人のセンターバックスクリーンに飛び込む「グランドスラム」で一挙4点を追加。その後も3回表に1点、2点を返された後の7回表には決定的な追加点(2点)を挙げ、そのまま9―2で快勝。3年ぶりの優勝に「王手」をかけた。

先手を取ったのは東温。初回、一死三塁から3番・高木風史の中前適時打で1点を先制すると、2回表にも8番・白石一颯、3番・高木風史の適時打、相手守備の乱れで3点を追加。3回表には相手投手の制球の乱れと敵失により2点を加え、序盤で6―0と大きくリードを奪った。

守っては、高木風史、高木凱司、辻川凌功の3投手を小刻みにつなぐ起用法で徳島打線を僅か2安打に抑え込み、そのまま完封勝利。9年ぶりの決勝へ駒を進めた。



序盤に6点を奪った東温が決勝へ

《準決勝》
東温高 6―0 徳島科学技術高



大村が貴祿のコールド勝ちで優勝!!

《決勝》
大村工業高 9―1 東温高

初回、2回と互いに得点を奪えず、迎えた3回裏、大村は8番・中尾拓夢が三遊間への安打で出塁。内野ゴロ、犠打で三進後、敵失により生還を果たすと、なお二死一塁の状況で3番・大島拓人が準決勝同様センターバックスクリーンへ鮮やかなツーランホームラン! この回3点を先制した。

大村は直後の4回表に1点を返されたが、5回裏、再び8番・中尾拓夢の安打を足場に塁上を賑わせ、3番・大島拓人が適時二塁打、さらに捕逸、敵失で加点後、6番・平山未来の「会心」のツーランホームランで大量6得点!! 一気に5回コールド勝ちを成立させ、9―1で東温に圧勝! 3年ぶり6回目の「夏の頂点」へ登り詰めた。

大会トーナメント表、全試合イニングスコアはこちら!



◎第77回全日本高等学校女子選手権大会◎

令和7年7月26日（土）～29日（火）岡山県津山市／勝北総合スポーツ公園・加茂町スポーツセンター



数々の好ゲーム・激闘を経て…

高校ソフトボール、最大・最高の目標とされる「インターハイ」。全国各地で出場権をつかみ取った48チーム（※開催地・岡山から2チーム出場）が岡山県津山市に集い、「夏制覇」をかけて「第77回全日本高等学校女子選手権大会」に挑んだ。

大会は7月26日（土）～29日（火）の日程で開催されたが、初日（1回戦）の神奈川県立厚木王子高等学校（神奈川）vs 柴田学園大学附属柴田学園高等学校（青森）戦で、厚木王子高・島津リノ投手が第71回大会以来となる「完全試合」を達成するという快挙もあった。

最終日の準決勝には、その島津リノ投手を中心に昨年度（2024年度）再編統合され、名門・厚木商業高から伝統を受け継いだ神奈川県立厚木王子高等学校、香ヶ丘リベルテ高等学校（大阪）、金沢高等学校（石川）、地元・創志学園高等学校（岡山）がそれぞれ進出した。

〈準決勝〉

厚木王子高 4―1 香ヶ丘リベルテ高

香ヶ丘リベルテは2回表、4番・小川舞華が中前安打で出塁し、犠打、内野ゴロで三塁まで進塁。7番・横田萌花の右中間への適時二塁打で生還を果たし、1点を先制した。

しかし、厚木王子も4回裏、連打、内野ゴロで一死二・三塁とし、5番・千葉香子のピッチャーゴロの間に三塁走者が還り、同点。試合を振り出しに戻すと、6回裏には安打、敵失で得た無死一・二塁の好機で4番・島津リノが走者一掃の勝ち越し適時二塁打！さらに足で揺さぶり、6番・渡邊まひろがスクイズを決め、4―1と3点差にリードを広げた。

投げては、先発・島津リノが先取点こそ奪われたものの、持ち味の「緩急巧みなピッチング」で完投勝利。決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉

創志学園高 6―1 金沢高

先攻の創志は初回、1番・江田侑紀奈が安打で出塁した後、3番・山下真友佳、6番・安楽咲の適時打等でききなり3点を先制。2回表にも相手守備

の乱れに乗じて1点、3回表にも6番・安楽咲のレフトへのソロ本塁打で1点、終盤6回表にはこの試合大活躍の6番・安楽咲の二塁打からダメ押しの6点目を追加し、勝利を決定づけた。



創志の6番・安楽咲が大活躍！

守っては、エース・二ノ宮沙姫が6回裏に連続二塁打を浴びて1点を返されたが、大勢に影響はなく、6―1で快勝。8年ぶりの優勝に「王手」をかけた。

〈決勝〉

厚木王子高 4―3 創志学園高

初回到厚木王子が小技・機動力を絡め2点を先制すれば、2回表、創志も6番・安楽咲の一発（ツーランホームラン）で応戦。試合はその後両チーム一歩も譲らず、2―2の同点のまま、延長タイブレークに突入した。

迎えた延長8回表、創志はタイブレークの走者を犠打で手堅く三塁に進めると、8番・橋本真央のサードへの当たりが守備の乱れを誘い、1点を勝ち越し。

しかし、「諦めない」厚木王子はその裏、同じく犠打でタイブレークの走者を三進させた後、4番・島津リノが「初球」を思い切つて振り抜き、ライトオーバーのタイムリースリーベース！なお一死三塁とサヨナラの好機が続き、5番・千葉香子の打席の4球目にスクイズを敢行!! サード前に転がり、前進して捕球した三塁手が本塁突入を試みる三塁走者・島津リノにそのままタッチしようと懸命に手を伸ばしたが、僅かに届かず……「紙一重のスライディング」で見事かいくぐった島津リノが歓喜の生還を果たし、厚木王子が劇的なサヨナラ勝ち！まさに「執念」の勝利で、3年ぶり9回目のインターハイ王者に輝いた。



厚木王子、「執念」のサヨナラ勝ち!!

大会トーナメント表、全試合イニングスコアはこちら！



第25回全日本中学生男子大会

令和7年8月2日（土）～4日（月） 福岡県福岡市／雁の巣レクリエーションセンター
記録提供：福岡県協会記録委員会

神奈川オーシャンドッグス（神奈川）



大会初日（2日／土）に1回戦・2回戦の18試合、2日目（3日／日）に準々決勝・準決勝の6試合、3日目（4日／月）に決勝の1試合を行い、全日程を終了した。

ベスト4には、神奈川オーシャンドッグス（神奈川）、長崎KSC（長崎）、山口水産ジュニア（鹿児島）、東九州MSBC（宮崎）が勝ち上がり、中学生男子の「日本一」の座をかけて戦った。



「地元」福岡からは福岡レッドドリームズが参戦！

去る8月2日（土）～4日（月）の3日間、福岡県福岡市・雁の巣レクリエーションセンターを会場に「第25回全日本中学生男子大会」が開催され、全国の精鋭26チームが集結し、熱戦を繰り広げた。

〈準決勝〉長崎 KSC 1－3 神奈川オーシャンドッグス

神奈川が3－1で勝利し、決勝へ！



神奈川は2回裏、この回先頭の6番・鈴木勇翔が二遊間を破る安打で出塁すると、犠打、ショートゴロで三塁まで進塁。9番・小澤侑唯のライト前タイムリーで生還し、この回1点を先取した。神奈川は続く3回裏にも、この回先頭の2番・石田湊也、3番・鈴木翔太の連続二塁打で1点を追加。二死後、パスボールで二塁走者が三塁に進塁し、6番・鈴木勇翔の三遊間を抜くタイムリーでもう1点を加え、3－0とリードを広げた。

一方、長崎は3点を追う4回表、4番・萩原太一の三塁線を抜く安打、6番・山本勝斗のレフトオーバーのタイムリースリーベースで1点を返したが、反撃もここまで。3－1で神奈川が勝利し、決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉東九州 MSBC 2－3 山口水産ジュニア

両チーム無得点のまま、迎えた4回裏、山口水産はこの回先頭の5番・濱島海司の左中間を破る三塁打で先制機をつかむと、続く6番・先立瑛海の三遊間へのタイムリーで1点を先制。

1点を追う東九州は6回表ようやく反撃。この回先頭の2番・河原琉偉が四球を選び、出塁。犠打、ショートゴロで二死三塁とし、5番・濱松奏羽の故意四球、盗塁で二死二・三塁のチャンスを作ると、6番・園田淳之介がセンター、ショート、セカンドの間に落ちるタイムリーを放ち、打球が内野を転々とする間に三塁走者に続き、二塁走者までもが生還。この回2点を奪い、逆転に成功した。

しかし、その裏、山口水産はこの回先頭の6番・先立瑛海が一・二塁間を破る安打で出塁。7番・橋口琥太郎の四球で一・二塁とし、次打者のビッチャーゴロで三塁フォースアウト。一死一・二塁となった後、9番・桃木大和の犠打で二死二・三塁、1番・安藤優斗の故意四球で満塁と攻め立て、2番・霜山琉旺のショートゴロがエラーを誘い、二者が一気にホームイン！3－2と逆転したところで制限時間を迎え、山口水産が決勝進出を決めた。



山口水産が接戦を制し、決勝進出

《決勝》神奈川オーシャンドッグス 5－1 山口水産ジュニア

エース・後藤健志が力投！初優勝の立役者となり大会MVPに☆



先攻の神奈川は初回、連続四球で無死一・二塁のチャンスをつかみ、一死後、ダブルスチールを仕掛けると、二塁走者を刺そうとした捕手の三塁への送球が逸れ、二塁走者が生還し、1点を先制。2回表にも、この回先頭の鈴木紳之助がセンター前ヒットで出塁し、次打者の死球で無死一・二塁とし、9番・小澤侑唯のバントがピッチャーとファーストの間に転がる安打となり、その間に二塁走者が判断よく本塁を陥れ、1点を追加。なお無死一・二塁のチャンスが続き、1番・三堀玲雅のセンター前ヒットで満塁と攻め立てると、一死後、3番・鈴木翔太のレフト前タイムリーで三塁走者が還り、この回2点を追加した。

神奈川は1点を返され、迎えた4回表にも、一死から1番・三堀玲雅、2番・石田湊也の連続三塁打で1点を加え、3番・鈴木翔太のピッチャー強襲のタイムリーで三塁走者が還り、5－1とリードを広げ、「初優勝」をグッと引き寄せた。

投げては、神奈川の「エース」後藤健志が山口水産打線をわずか2安打・1失点に抑え込む好投でチームを初優勝に導き、大会MVPにも輝いた。

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！

第25回全日本中学生女子大会

令和7年8月9日（土）～12日（火）※悪天候のため1日順延 大阪府堺市／みなと堺グリーンひろば
記録提供：大阪府協会記録委員会



大阪プリムローズ SBC（大阪）

チーム一丸初優勝！



優秀選手・太竹咲穂
（トリプルA）



大会 MVP・丸谷珠代
（大阪プリムローズ SBC）

【大会概要】

標記大会は、8月9日（土）～12日（火）、大阪府堺市／みなと堺グリーンひろばを会場に開催された。

大会には全国各都道府県の代表48チームが集結。大会初日は8面を使用し、1回戦16試合・2回戦16試合の計32試合、2日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合、大会3日目がいにくの悪天候に見舞われ、この日実施予定であった準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が中止・順延。予備日を使って全日程を終了することになった。

厳しい暑さの中での大会となり、「熱中症対策」として、2回、4回、6回終了時に「給水タイム」を設ける等、しっかりと対策が講じられていた。中学生の全国大会といえは中体連の「全中」こそ「最高峰の大会」といったイメージであったが、近年は各チームのクラブ化が進み、女子U15・U18日本代表選手のプロフィールを見ると、そのほとんどが中学時代「クラブチーム」でプレイし、この大会に出場している選手が多く、今後、部活動の地域展開や中体連の全国大会の実施種目削減（男子ソフトボールは実施種目から除外）の方向性もあり、中学生チームの「クラブ化」が加速していくと考えられる。

〈準決勝〉 大阪プリムローズSBC 4-2 広島プリンセス



大阪、逆転で決勝へ！

3回裏、1点を先制された大阪プリムローズSBCは、その直後の4回表、4番・木村衣里の三塁線を抜く二塁打、犠打で一死三塁とし、6番・川口穂乃のショートゴロがフィルダースチョイスとなり、同点。さらにワイルドピッチ、内野安打、盗塁で一死二・三塁と攻め立て、8番・西谷瑠夏のレフト前ヒットで2-1と勝ち越し。続く5回表にも3番・山下瑚子の中越適時二塁打等で2点を加え、4-1とリードを広げた。

守っては、エース・丸谷珠代が最終回に1点を失ったものの、被安打5・失点2の力投でこのリードを守り切り、4-2で広島プリンセスを振り切り、決勝進出を決めた。

〈準決勝〉 福岡レッドドリームズ 2-4 トリプルA (6回時間切れコールド)

2回に1点ずつを取り合い、迎えた3回裏、トリプルAは4番・大竹咲穂のレフトへの本塁打で1点を勝ち越し。続く4回裏にも、7番・日下部智菜の二塁打、故意四球等で二死二・三塁のチャンスをつかみ、2番・黒木心音がライト前にタイムリーを放ち、二者が還り、4-1とリードを広げた。

福岡レッドドリームズは6回表、連打と犠打で一死二・三塁とし、1番・橋本陽美がレフト前にタイムリー！ 2点差に追い上げ、反撃ムードが高まった。

しかし……その裏、トリプルAの攻撃が終了した時点で「制限時間」を迎えてしまい、無情の時間切れコールド。最終回を迎えることなく、トリプルAの決勝進出が決まった。



福岡、無情の時間切れ

〈決勝〉 大阪プリムローズSBC 3-1 トリプルA

後攻のトリプルAは初回、四球で出塁した走者を犠打で二塁へ進め、3番・安藤心美のショートゴロで二塁走者が飛び出してしまう、これを刺そうと挟殺プレイになったが、内野手の連係にミスが出て、走者が一気に生還。トリプルAが先取点を挙げた。

1点を追う大阪プリムローズSBCは終盤6回表、死球で出塁した走者を一塁に置き、4番・木村衣里が三塁線を鋭く破る適時三塁打！ 1-1の同点に迫につき、四球、盗塁で無死二・三塁とした後、6番・川口穂乃への3球目が痛恨のワイルドピッチとなり、三塁走者が生還。1点を勝ち越し、なお続く無死三塁のチャンスで「キャプテン」川口穂乃がヒットエンドランを決め、決定的な3点目を挙げた。

守っては、エース・丸谷珠代が力投！ 6回裏二死二・三塁、最終回一死一・二塁のピンチを「気迫」のピッチングで切り抜け、3-1で勝利を収め、「初」の栄冠に輝いた。



激戦を勝ち抜き、初の栄冠を手にした大阪プリムローズSBC。歓喜の抱擁！



2025.8.12/大阪府堺市・みなと増グリーンひろば

第25回
全日本
中学生女子
ソフトボール大会
決勝
ダイジェスト

決勝戦ダイジェスト動画はこちらから



大会結果の詳細、全試合のインングスコア等は
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第39回全日本小学生男子大会

令和7年8月2日（土）～5日（火） 福井県福井市／福井市きららパークグラウンド 他
記録提供：福井県協会記録委員会



激戦制し、初優勝！



【大会概要】

標記大会は、8月2日（土）～5日（火）、福井県福井市／福井市きららパークグラウンド・スポーツ公園ソフトボール場を会場に開催された。

大会には全国各都道府県の代表48チームが集い、「小学生男子日本一」の座をかけ、熱戦を繰り広げた。

大会初日は1回戦16試合、2日目は2回戦16試合、3日目は3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合、最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合が容赦なく照りつける太陽のもと、実施された。

酷暑の中での大会となり、「熱中症対策」として会場入口付近にはミストシャワーが設置され、2回、4回、6回終了時に「給水タイム」を設ける等、万全の体制を敷き、試合が行われた。

今大会は地元・期待の本郷少年ソフトボールクラブが大会最終日まで勝ち残り、「女子選手」をエースとする望海ジュニアソフトボール（B.J.S. B）（兵庫）もベスト4進出を果たす等、話題の多い大会となった。

準決勝では、その地元・福井の本郷少年ソフトボールクラブと望海ジュニアソフトボールクラブが激突。もう一方のゾーンでは呉荘山田龍王クラブ（広島）と三溪カーレジ（香川）が対戦した。

《準決勝》 呉荘山田龍王クラブ 0-8 三溪カーレジ (5回得点差コールド)



三溪カーレジ、猛打爆発

後攻の三溪カーレジは初回、1番・棟保琉空が四球で出塁し、2番・多田悠真、3番・亀井翔真、4番・鈴木源、5番・上迫朝飛が怒涛の4連打！ 鮮やかな先制攻撃で3点を先制すると、3回裏には四死球で走者を溜め、2番・多田悠真、3番・亀井翔真、4番・鈴木源の3連続長短打等で大量5点を加え、勝負を決めてしまった。

守っては、エース・亀井翔真が被安打5・奪三振6の好投で呉荘山田龍王クラブ打線に得点を許さず、8-0の5回得点差コールド勝ち！ 投打に「強さ」を見せつけ、念願の「初優勝」に王手をかけた。

《準決勝》 望海ジュニアソフトボール (B.J.S.B) 4-6 本郷少年ソフトボールクラブ

試合は初回から激しい点の取り合いとなり、先攻の望海ジュニアが2点を先制すれば、その裏、本郷少年がすぐに1点を返し、2回裏にも1点を返して2-2の同点で迎えた3回裏、安打、犠打失策、内野安打で一死満塁と攻め立て、5番・堀江皇希のタイムリーで二者が還り、2点を勝ち越し。さらにダブルスチールで揺さぶりをかけ、二・三塁と走者を進め、二死後、7番・長谷旺璃がライト線へ走者一掃のタイムリーツーベース！ この回大量4点を挙げ、6-2とリードを奪った。

望海ジュニアも4回表に2点を返したが、4回終了時点で「制限時間」を迎え、本郷少年ソフトボールクラブが6-4で勝利を収め、決勝へ駒を進めた。



望海ジュニアは「女子」のエース・玉城陽菜が奮闘

《決勝》 三溪カーレジ 2-0 本郷少年ソフトボールクラブ

試合は本郷少年・堀江俊斗、三溪カーレジ・亀井翔真、両エースが好投。決勝戦にふさわしい緊迫した投手戦を展開した。

先攻の三溪カーレジは初回の一死三塁、4回表の無死二塁、5回表の二死三塁、6回表の一死満塁と毎回のようにチャンスは作るものの、地元の熱い声援を背に力投を続ける本郷少年・堀江俊斗の前に「あと一本」が出ず……。

本郷少年も初回の一死二・三塁、2回裏の一死一・二塁のチャンスを逃すと、三溪カーレジのエース・亀井翔真の前に凡打の山を築き、両チーム無得点のまま、試合は最終回を迎えた。

三溪カーレジは7回表、一死から7番・鶴見巧也、代打・川端海生の連続内野安打と犠打で二死二・三塁とし、1番・亀井翔真が一・二塁間をしぶとく破るタイムリーを放ち、二者生還。力投を続ける福井少年・堀江俊斗をついに攻略！ 2点のリードを奪った。

福井少年もその裏、必死の反撃を試みたが……三溪カーレジのエース・亀井翔真が立ちはだかり、ショートゴロ、セカンドゴロ、空振り三振でゲームセット！ 三溪カーレジが2-0の完封で初の栄冠を手にした。



三溪カーレジが激戦制す



第39回
全日本
小学生男子
ソフトボール大会
決勝
ダイジェスト

2023.8.2~5 / 滋賀県福井市
福井市きららパークグラウンド 他

決勝戦ダイジェスト動画はこちらから



大会結果の詳細、全試合のイニングスコア等は
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第39回全日本小学生女子大会

令和7年7月26日（土）～28日（月）静岡県島田市・藤枝市・焼津市／大井川緑地公園ソフトボールグラウンド 他
記録提供：静岡県協会記録委員会



群馬クイーンズ Jr. 初優勝



猛暑の中、大会を支えてくださった静岡県協会の皆さん

標記大会は、静岡県島田市、藤枝市、焼津市を舞台に7月26日（土）～28日（月）の3日間にわたり開催され、全国から42チームが集結。「小学生女子」の頂点をかけて戦った。

大会初日（26日／土）に1回戦・2回戦の2試合、2日目（27日／日）に3回戦・準々決勝の12試合を行い、最終日（28日／月）の準決勝に進む4チームが出揃った。

ベスト4には、NARUMI（愛知）、群馬クイーンズ Jr.（群馬）、上沖ブルースターズ（埼玉）、草津レインボーガールズ（滋賀）が勝ち上がり、最終決戦へ挑んだ。

〈準決勝〉群馬クイーンズ Jr. 5 - 2 NARUMI

先攻の群馬は初回、一死から2番・平林歩稀の二遊間を破る三塁打で先制機をつかむと、二死後、4番・赤池陽葵の左中間を抜くタイムリーツーベースで1点を先制。さらに2回表にも、一死から相手守備の乱れと9番・青木玲の内野安打で満塁と攻め立て、1番・黒崎美月のレフト前タイムリーで三塁走者を還し、なお満塁のチャンスで2番・平林歩稀が走者一掃のタイムリーツーベースを放ち、この回一挙4得点! 5-0とリードを広げた。

一方、NARUMIは3回裏、9番・福浦りみのライトオーバーのスリーベースと内野ゴロで1点、5回裏に1番・小島あいの左中間を破るツーベースと盗塁、2番・竹原麗菜のセンター前タイムリーでもう1点を返したが、反撃もここまで。5-2で群馬が勝利し、決勝進出を決めた。



群馬・平林歩稀が2本の長打で3打点の活躍

〈準決勝〉草津レインボーガールズ 3-4 上沖ブルースターズ

草津は3回表、4番・齋藤瑚陽のタイムリーで1点を先制したが、4回裏、上沖も二死から4連打で2点を奪い、勝ち越し。草津も5回表に敵失等で1点を奪い、2-2の同点に追いつき、6回裏、上沖も一死から5番・榊崎楓の三塁線を破る二塁打、6番・四辻彩夏のライト前ヒット、盗塁で一死二・三塁とし、7番・四辻椰彩のセンターへの犠牲フライで再び1点を勝ち越すことに成功。迎えた最終回、1点を追う草津は、



上沖がサヨナラ勝ちで決勝進出!

この回先頭の2番・新阜愛梨の左中間を破る三塁打と3番・三木杏夏のタイムリーツーベースで3-3の同点としたものの、その裏、上沖は一死から1番・石田結希葉が敵失で出塁し、すかさず盗塁。これを刺そうとした捕手の二塁送球が逸れ、一塁走者が一気に三塁まで進塁。さらに次打者への2球目がワイルドピッチとなり、三塁走者がサヨナラのホームイン。4-3で上沖が決勝に駒を進めた。

《決勝》群馬クイーンズ Jr. 9-1 上沖ブルースターズ

群馬は3回表、この回先頭の3番・長尾向日葵が二遊間を抜く安打で出塁すると、ワイルドピッチで二塁に進塁。続く4番・赤池陽葵のショート内野安打で無死一・二塁、次打者のピッチャーゴロで一死二・三塁とし、ワイルドピッチでまず1点を先制。さらに四球で一・三塁となった後、7番・尾内莉奏がピッチャー前にスクイズを決め、三塁走者が生還。この回2点を先制した。群馬は1点を返され、迎えた5回表にも、一死一塁から5番・須永真莉菜のサード強襲安打、6番・内山苺菜のレフトオーバーのタイムリーツーベースで1点を追加。なお二・三塁のチャンスが続き、相手守備の乱れに乗じて2点目を挙げ、さらに一塁走者の盗塁で二・三塁とした後、8番・柳玲衣奈、9番・青木玲の連続タイムリーで2点を加え、続く1番・黒崎美月のレフト線を破るタイムリースリーベースで二者が生還。一死三塁となり、2番・平林歩稀のレフトへの犠牲フライでこの回7点目を挙げ、8点差にリードを広げた。その裏、群馬の「エース」赤池陽葵が上沖打線を無得点に抑え、9-1のコールド勝ち。今年4月に創部したばかりの群馬が全日本大会初挑戦で見事初優勝を飾った。



群馬がコールド勝ちで初優勝をつかんだ

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで!

第71回全日本教員大会

令和7年7月26日（土）～28日（月）

石川県金沢市／金沢市営専光寺ソフトボール場・北部公園ソフトボール場

記録提供：石川県協会記録委員会



初優勝！

滋賀教員アナナス（滋賀）



優秀選手・竹吉紀龍
（高知教員ソフトボールクラブ）



大会 MVP・曾我部太
（滋賀教員アナナス）

【大会概要】

今回の開催で「71回目」、数ある全日本大会の中でも「歴史と伝統」を誇る「全日本教員大会」は、7月26日（土）～28日（月）の3日間、石川県金沢市・金沢市営専光寺ソフトボール場、北部公園ソフトボール場を会場に開催された。

昭和30年「全日本総合大会」として第1回が開催された本大会は、第10回大会開催時「全日本教員選手権大会」へ大会名を改称。平成29年の第63回大会から使用球がゴムボールに変更され、大会の位置づけも競技部門から生涯部門へと変わること。そして昨年度（令和6年度）から「全日本教員大会」へとその大会名称を改める形になった。

大会には全国の精鋭32チームが参加。大会初日、4球場を使用し、1回戦16試合を実施。大会2日目に2回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日に準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を実施。無事、全日程を終了した。

酷暑・猛暑の中の大会ではあったが、選手たちは渾身とプレイ。審判員・記録員はじめ大会関係者も全力で大会運営に取り組み、無事に予定された全試合を終了。大会に関わるすべての皆さんが「笑顔」になれる大会となった。

〈準決勝〉 高知教員ソフトボールクラブ 7-0 名古屋教員ソフトボールクラブ

先攻の高知教員ソフトボールクラブは初回、二死走者なしから3番・武内亮太、4番・戸梶椋太の長短打で先取点を挙げると、2回表、3回表には6番・竹吉紀龍がソロホームラン、タイムリーを放つ活躍を見せ、着々と加点。5回表にも8番・竹内宏慶のタイムリーで1点を加えた後、6回表には4番・戸梶椋太が中越のスリーランホームランを放ち、3点を追加。7-0とリードを広げ、その裏の名古屋教員ソフトボールクラブの攻撃を無得点に抑え、2本の本塁打を含む11安打7得点の猛攻で6回得点差コールド勝ち。決勝進出を決めた。



高知、猛打で決勝進出！

〈準決勝〉 富士教員グリーン 2-6 滋賀教員アナナス

富士教員グリーンは2回表、この回先頭の4番・石塚太一が右中間二塁打、続く5番・杉山真史に中越のツーランホームランが飛び出し、この回2点を先制した。

2点を追う滋賀教員アナナスは、その裏、4本の長短打を集中し、あっさり同点に追いつき、3回裏には8番・洲崎力哉、9番・古田廉の長短打等で2点を勝ち越し。4回裏にも4番・中瀬大希のタイムリー、5番・福田雅史の右横飛で2点を追加し、6-2と4点差にリードを広げ、6回表、富士教員グリーンの攻撃を終えたところで時間切れとなった。



滋賀教員アナナスが決勝へ

〈決勝〉 滋賀教員アナナス 7-3 高知教員ソフトボールクラブ

高知教員ソフトボールクラブは2回裏、8番・橋田隆助、9番・竹内宏慶の連打、犠打等で二死二・三塁とし、1番・井上翔太のピッチャー強襲安打で先取点。3回裏には3番・竹内亮太に右中間に突き刺すソロホームランが飛び出し、2点のリードを奪った。

滋賀教員アナナスは4回表、安打、犠打、安打で一死一・三塁の反撃機をつかみ、4番・中瀬大希がしぶとく二遊間を破るタイムリーを放ち、1点を返し、1点差に詰め寄せた。

しかし……それも束の間、5回裏、守備の乱れから一死一・三塁のピンチを招き、パスボールで1点を失い、再び2点差にリードを広げられてしまった。

滋賀教員アナナスは6回表、2番・吉田昌平、3番・高岡源貴、4番・中瀬大希の3連続長短打で3-3の同点に追いつき、息を吹き返すと、最終回、代打・大橋良平の「気迫」の二塁打を口火に怒涛の5連続長短打で決定的な4点を挙げ、勝負あった。

その裏、懸命の反撃を試みる高知教員ソフトボールクラブの攻撃を「エース」曾我部太が無得点に抑え、歓喜の初優勝！出場31回目にして、ついに「初」の栄冠を手にした。



滋賀教員アナナス、歓喜の初優勝！

決勝ダイジェスト

第71回全日本教員ソフトボール大会
2025.7.26~28 / 石川県金沢市・金沢市営専光寺ソフトボール場 他



決勝戦ダイジェスト動画はこちらから

大会結果の詳細、準決勝・決勝のインングスコア等は
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

日韓ジュニアスポーツ交流事業

（ソフトボール競技／チーム招待）

令和7年8月8日（金）～13日（水） 千葉県千葉市・千葉県総合スポーツセンターソフトボール場 他



日韓両国のレベルアップを願い グラウンド内外で活発に親善・交流

去る8月8日（金）～13日（水）、「日韓ジュニアスポーツ交流事業」ソフトボール競技（チーム招待）が実施された。

この「日韓ジュニアスポーツ交流事業」は2001年にスタートし、今年で22回目の開催。2019年の開催の後、コロナ禍もあり、2020年～2022年の3年間、「中止」を余儀なくされ、開催を見合わせてきたが、2023年ようやく「再開」され、今年も例年通り開催することができた。

この「交流事業」は、アジア近隣諸国とのスポーツ交流を促進し、両国の友好親善と競技力向上を目的に「相互派遣方式」で実施されている。

従前は、9月初旬にまず日本チームが韓国を訪問。これを受け、11月に韓国チームが来日するのが「通例」であり、お決まりの「パターン」であったが、このところ韓国チーム（女子U18代表チーム）が先に来日し、「日本代表チーム」が11月に韓国を訪問するパターンに切り換えられた。

今回の「チーム招待」事業では、韓国女子U18代表チームが来日。今年3月に開催された「第43回全国高校選抜女子大会」で優勝した千葉経済大学附属高等学校ソフトボール部が「ホストチーム」となり、6日間にわたり充実した交流プログラムを実施した。

・8月8日(金)

韓国代表チームが成田空港に到着。韓国チームは、日本の夏の蒸し暑さにも負けず、元氣いっぱい。ホテルへ移動し、明日からのプログラムに向けてしっかりと心身の準備を整えた。

・8月9日(土)

快晴に恵まれた千葉県千葉市・千葉県総合スポーツセンターソフトボール場にて、両国選手による交流試合を2試合実施。「真剣勝負」の中でも笑顔が絶えず、互いのプレイスタイルを学び合う一日となった。

お昼は両チームが揃ってお弁当を囲み、試合中とは違う和やかな時間を過ごした。互いの好物を話し合ったり、練習や学校生活の話で盛り上がり、笑顔と会話が溢れるひとときとなった。

試合の方は、午前中の第1試合は韓国が先制するも、日本が後半追い上げ、結果は7-1で日本の勝利、午後の第2試合は旅の疲れか、暑さのためか、韓国が精彩を欠き、18-0の大差で日本の勝利となった。

・8月10日(日)

雨天のため、千葉県ソフトボール協会のご尽力により、稲毛海浜公園室内運動場を前日夕方に確保、トレーニング

グとポジション別合同練習を実施した。千葉経済大学附属高校ソフトボール部が常日頃行っている練習メニューをウォーミングアップから一緒にを行い、日韓両チームの選手がベアとなり、サーキットトレーニングも行った。

午後には、ソフトボール界の「レジェンド」である(公財)日本ソフトボール協会・宇津木妙子副会長が駆けつけ、両チームに熱のこもったノックを披露。選手たちは宇津木妙子副会長の「代名詞」でもある「速射砲ノック」に懸命に食らいつき、真剣な表情でボールを追いかけ、貴重な指導のひとときに大きな感銘と刺激を受けることとなった。

この日の夜は歓迎食事を開催。(公財)日本ソフトボール協会・宇津木妙子副会長、千葉県ソフトボール協会・井之上会長、同・鈴木理事長、同・佐藤事務局長がホスト役を務め、韓国チームを歓待した。韓国チームは人気の「KPOPダンス」、日本チームは「ソーラン節ダンス」を披露し、会場は笑顔と拍手に包まれ、互いの交流・親善と相互理解を深める一夜を過ごした。

・8月11日(月)

午前中は雨の予報であったが、雨が降り出す前に千葉県総合スポーツセンターソフトボール場で試合を開始。しかし、途中から雨が強まり中断。急遽、

千葉経済大学附属高校の施設をお借りし、昼食は教室で、午後はグラウンドに移動し、ポジション別練習を実施した。

その後、また雨足が強くなり、体育館でのトレーニングを実施。日本チームの選手は、普段から中学生へのクリニックを行っていることもあり、その経験・実体験を活かし、分かりやすく、かつ理論的な技術指導を行っていた。

細部にまでこだわったアドバイスに、韓国チームの選手たちも真剣な表情で耳を傾け、互いのレベルアップ、技術向上につながる貴重なことで濃密な時間を過ごした。

雨が降ったりやんだりの天気であったが、千葉県ソフトボール協会、千葉経済大学附属高校の柔軟かつ迅速なスケジュール変更等、臨機応変な対応で限られた時間を最大限に活用することができた。最後は別れを惜しみながらも「次は韓国で会おう」と約束を交わし、ハイタッチでお別れした。

・8月12日(火)

韓国チームは終日、東京都内と千葉県内の観光とショッピングを満喫。日本の文化を体験する一日となった。

・8月13日(水)

羽田空港にて韓国チームを見送り、

無事、交流事業(チーム招待事業)が終了した。

【成果と感想】

・試合・練習・文化交流を通じ、言葉の壁を超えて友情を育むことができた。
・宇津木妙子さんからの直接指導は、選手たちのモチベーション向上に大きく貢献。

・日本と韓国、双方それぞれの練習方法やプレイスタイルを体験し、視野が広がった。

【まとめ】

今回の交流事業は、技術向上だけでなく、文化や人とのつながりを深める貴重な機会となった。韓国チームは、日本特有の蒸し暑さにも負けることなく、最後までエネルギーにブレい。千葉経済大学附属高等学校ソフトボール部との対戦を通して、互いのプレイスタイルを肌で感じ合った。

現状における力の差は否めないが、スポーツが国境を越える力を改めて実感し、この若いソフトボールプレイヤーたちが、今後の日韓両国のソフトボールを牽引することを確信した。

また、選手たちにとって、この多感な時期の国際交流が、今後の競技生活や人生においても大きな財産となることを心から願う。

1年の総決算！ 全日本大会開催真っ盛り！！



酷暑・猛暑対策万全！ 最高の夏に！！

夏の全日本大会（全国大会）開催真っ盛り！全国的な酷暑・猛暑の中、また「線状降水帯」の発生による局所的、記録的な大雨による浸水被害、土砂災害等がありながら、日本全国、「年に一度」「シーズンの総決算」「学生生活の大団円」となる「全日本大会」を成功させようと、開催地の皆さんが日夜創意工夫を重ね、知恵を絞り、大会運営にあたってくれている。

そして……試合に出場する選手・チームの皆さんも「勝利」「日本」の座をめざし、奮闘！勝利をめざす傍らでグラウンド整備を手伝ってくださったり、片づけをしてくださったり……と、大会の成功向け、大会に出場する選手・チームの皆さんと各開催地の大会運営スタッフの皆さんが力を合わせ、互いを気遣い、リスペクトする姿は「感動的」ですらあった。「熱中症対策」「暑熱対策」についても運営側が「給水タイム」を設け、ミストシャワー、扇風機等を用意すれば、チームも選手・保護者の皆さんがその数分間に少しでも選手が身体を冷やせるよう「総動員態勢」で冷却用のネックリングを配り、氷嚢で頭部を冷やし……と、その「見事」なまでの「連係プレイ」は、カーレース「F1」の熟練のピットクルーを見ているかのようなだった（笑）。ここでは、そんな「全日本大会」のひとコマをお伝えする。

全国各地で大会を支えてくださった皆さん



大会を支えてくださったすべての皆さんに**感謝**を！

事務局だより

WBSC最新世界ランキングで
日本が「男女とも1位」の快挙！

WBSC（世界野球ソフトボール連盟）が、このほど最新世界ランキングを発表。日本ソフトボールが「初めて男女揃って1位に立った！」という嬉しいニュースが飛び込んできた。

女子ソフトボールは、先の「第2回女子U15ワールドカップ」における「全勝優勝」が決め手となり、日本が宿敵・アメリカを抜き去り、「世界ランキング1位」へ躍進。



第2回女子U15 ワールドカップでの「全勝優勝」が決め手に！

男子ソフトボールも、今夏の「第18回男子ワールドカップファイナル」でスーパースタンド進出を果たし、4位入賞の健闘を見せたことが2ランクアップにつながり、日本としては2021年以来的「世界ランキング1位」へ躍り出る形となった。

「男女揃って世界ランキング1位」に輝く日本ソフトボール。今後もTOPチームはもとより、各カテゴリーでのさらなる活躍を期待したい！！



日本男子ソフトボールも、さらなる高みへ！ 名実ともに「真の世界一」をめざして！！